



「ホームベンチリニューアル」編

東京メトロでは、2016年6月までに整備可能^{*}な全ての駅（全140駅）のベンチをリニューアルしました。座り心地と機能を向上させたベンチを全駅共通の仕様とし、また設置場所の条件に合わせた3種類のベンチを設定することで、これまで旅客流動上の理由で置けなかった場所にも置けるようになり、設置数を大幅に増やしました。

今回は、新しいメトロのベンチの詳細とリニューアルの内容について紹介します。

※改装工事中の駅等については、順次設置します。（全39駅）

背景

これまでの駅のベンチは、駅の内装デザインに合わせて制作したものや既製品を用いるなど、駅によって形状や素材、寸法（座面の高さ等）の異なるものが設置されており、同じ東京メトロの駅でありながら座り心地や見た目などの統一感がとれていない状況でした。各駅でそれぞれ違う仕様であることから、故障時には修理まで時間がかかり、お客様にご不便をお掛けすることもありました。

また、高齢化によりベンチを必要とされるお客様が増えたことや、相互直通運転の増加により、目的地行きの電車を待つ方が増えたことなどの背景からベンチに対するニーズが高まっており、お客様からはベンチの数が少ない、必要な場所がないというようなご意見も徐々に目立って増えてきていましたが、ホームの構造や安全面の観点で増設には限りがありました。

（右写真）これまでのベンチの一例

それぞれの駅に合わせて選定していたため、異なる仕様のベンチが設置されていました。



新しいベンチの導入・特徴

リニューアルにより、設置場所の条件に合わせた3種類の新しいベンチを導入しました。座り心地が良く、多様なお客様に対応した機能的なベンチを東京メトロの全ての駅における共通仕様とし、電車の待ち時間を快適にします。



スタンダードタイプ

POINT1

座り心地の良い素材・形状

座面・背面の素材 ①

耐久性の高いクッション素材を使用し、座り心地を向上しました。本体構造から取外しが可能な仕様とし補修及び更新時にも速やかに交換できます。

形状・寸法

人間工学を踏まえた座り心地の良い高さや座面角度を採用しました。

POINT2

利用者の属性やシーンに配慮

アイキャッチ(サイン) ②

ベンチがどこにあるか遠くからでも分かりやすいサインを設けました。支柱には路線のカラーを入れています。

傘・杖立て ③

傘及び杖立て用のホルダーを設置しました。両手で肘掛けや手摺を使って立ち上がる際のことも配慮しました。

縦型手摺 ④

高齢者が楽に立ち上がれるようにサポートします。



POINT3

荷物置き場

荷物置き場 ⑤

カバンや紙袋等を置ける台を設置しました。座席に荷物を置くことが減り、一人でも多くの方にお座りいただけるように配慮しました。



POINT4

隣を気にしないで座れる間隔

座席間の離隔確保 ⑤

間隔を確保することで全ての席を有効に使用し、着席率を高めます。



コンパクトタイプ

柱や設備によりスペースが狭い場所でも設置できるベンチです。荷物置き場を設けずに幅を縮小したタイプです。座席部分はスタンダードタイプと同じで座り心地は快適です。



スリムタイプ(ひといきベンチ)

混雑するホームや幅の狭いホームでも設置できるように、奥行きを縮小したタイプです。座面の高さを少し高くすることで座りやすさ、立ち上がりやすさに配慮しました。

ひといきベンチ
この駅はホーム幅が狭いため、安全を考慮した幅をとらないベンチを設置しています。

これまで設置できなかった場所への設置が可能になりました。背もたれに「ひといきベンチ」の目印シールが貼られています。

ベンチの増設

2016年6月までに 140駅のベンチをリニューアルしました。狭い場所でも設置可能な新しいベンチを採用することで約1,500席(約35%)のベンチを増設しました。

また、単に数を増やすだけでなく、必要な場所にバランス良い配置となるように設置しました。

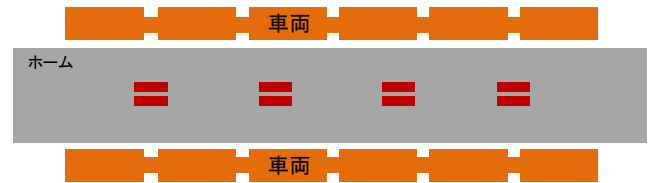
路線別ベンチ設置数(整備可能駅140駅ベース)

路線	当初	改良後	座席増
銀座線	167席	210席	+43席
丸の内線	556席	711席	+155席
日比谷線	538席	608席	+70席
東西線	609席	881席	+272席
千代田線	596席	820席	+224席
有楽町線	832席	1081席	+249席
半蔵門線	365席	576席	+211席
南北線	442席	627席	+185席
副都心線	274席	404席	+130席
合計席数	4379席	5918席	+1539席 (+35%)

POINT

バランス良い配置

ベンチ設置イメージ
(島式ホームの例)



■ ベンチ(5席/箇所)

基本的な配置の考え方

ホームの車両停止位置に対して、2両に1箇所以上



南北線駒込駅



有楽町線市ヶ谷駅

お客様からの評価

2015年度(全体の約7~8割設置時点)に実施したお客様モニター調査によると、「駅構内のベンチなど休憩設備の充実度」が大きくアップしています。また、ベンチの数が増えたこと、座り心地の良さ、スタイリッシュなデザインになったなど、新しいベンチについて、評価する声も多くいただいています。

しかし、ベンチの設置場所や形状などに関するご意見も減ってはおりませんが、まだゼロではありません。メトロのベンチリニューアルはこれからが始まりです。お客様の声を聞き、これからもより快適な環境をご提供できるように取り組んでいきます。

【参考】駅空間に新しいスペースの提供～エキナカワークスペースの設置～

駅のホーム・コンコースにおいて、PC・タブレット端末・スマートフォン等による作業ができる空間「エキナカワークスペース」を2016年3月から試験設置しています。設置箇所は、表参道駅、溜池山王駅、銀座駅の3駅4箇所、それぞれタイプの異なるスペースを提供しております。

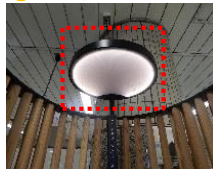
設置後、お客様からは「電車の待ち時間に、コンセントで充電しながらPCやタブレットを利用して便利」や「ちょっと立ち寄れる場所ができたことで、心の余裕ができた」とご好評をいただいております。



※エキナカワークスペース一例
(銀座線溜池山王駅改札口付近)

充電用コンセントや上部から手元を照らすLEDライトを完備し、作業の快適性向上を図っています。

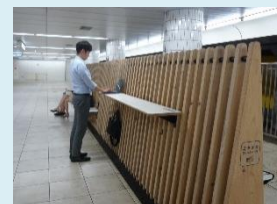
①LEDライト



②充電用コンセント



※機能については、設置箇所によって異なります。



【写真左上】表参道駅(ホーム)
【写真右上】溜池山王駅(ホーム)
【写真左下】銀座駅(定期券うりば内)



銀座駅のスペースには、机に合わせていすも設置。ゆったりと座りながら作業を行うことができます。

「エキナカワークスペース」については、2016年12月までに効果検証を行います。3駅をご利用の際はぜひ「エキナカワークスペース」をご活用ください！今後も東京メトロでは、全てのお客様に地下鉄を快適にご利用いただけるよう様々な施策を行ってまいります。

東京を走らせる力

